

# 東与賀

higashiyoka

文責 田中泰司

佐賀市立東与賀中学校

## あと一か月で

### 夏休み!

梅雨の最中、降りやまない雨に心も沈みがちになります。農作物にとっては必要な、恵みの雨です。春夏秋冬、四季折々の日本の自然の豊かさを感じる毎日です。

先週末からソフトボール競技等が、そして今週末にはほとんどすべての競技が中総体を控え、それぞれが日々練習に励んでいます。また部活動以外でも、それぞれの場所で、それぞれの取り組みを自分らしく頑張っている話も耳にしています。急に気温が上がることもあります。体調管理と熱中症には十二分に気を付けて、暑い夏を乗り切りたいと思いをたくさん手にしてほしいと願っています。

もう半分? まだ半分? 一年で疲れがたまったり、気分が落ち込んだりする時期が三回あるそうです。それは、六月・十一月・二月で、人間の体の仕組みや気候の変化などから科学的にも証明されているそうです。「魔の六月」とも言われますが少し気にかけて、乗り越えましょう。

六月はなんだか宙ぶらりんの一か月で、気持ちの持っていき方が難しく感じられませんか? 今の時期は年度初めの新鮮さが薄れていくと同時に悪い意味での慣れも出てきます。学校や周囲の人たちの良い点は「当たり前」で目立たなくなりますが、そうでない点ばかりが余計に目について、つい不満や文句が出てしまいがちになります。そんな時にはいったん立ち止まって「今の不満が本当にそうなのか?」「自分の気持ちの持ち方にならぬ原因があるのでは?」

### 突発性難聴のこと (後編)

「前編より続く」もちろん言っている本人には悪気は一切ありません。きつと知り合いなどに難聴が改善されたという方がいらつしやるのでしよう。

私は診断が出た後でインターネットや書籍で治療法を隅から隅まで探しました。しかし、ごく軽い症状を除き「本当に治った人」はいなかったのです。もし、そんな治療法や薬があったら例えば歌手ならいくらお金がかかっても治療するでしょう。しかし堂本剛さんや、スガシカオさんはいまだに聞こえないままです。治療法を探せば探すほど「受け入れるしかない」と思うしかない状況で「大丈夫だよ、治るよ」という言葉はあまりにも辛い言葉でした。

私は「聞こえない」ことに理解を示せ、と言っているわけではありません。見た目では分からないのだから、自分から状況を知らせて「理解してもらおう」というようにしています。また、心のままで配慮してくれとも望んでいません。ですが、当事者以外にはわかりえない思いがあることを知っておいてほしいと思います。安易に励ましたり、共感しようとしたりはできないと思うのです。

「治るよ」の言葉には「ありがとう、なかなか難しいんだよね」とかわすようにしています。移植治療を受けたいから研究者になって実用化させてくれと生徒にお願いしたりします。「わかってもらえない」といじけるより生きやすくなるように「自分から」発信し、行動を変えなきゃだと思おうのです。この病気を通して、様々な変化と気づきがありました。自分がそうならなければこんな真剣に考えることはなかったでしょう。ですから、今、社会に存在するたくさんの方の問題にもできるだけ自然体で中立の立場で関わり、新しい情報を柔軟に取り入れ、そして考えを更新していきたいと思っています。突発性難聴になったことで得たこと、考えたことを伝え、皆さんがしなやかに、思いやりをもって人生を送ってほしいという願いを発信し続けます。

### 校長室より

何年か一度、一人で旅をすることがライフワークとなりました。毎月少しずつお金を積み立て、下調べをして行く場所を決め、自分で予約を済ませいよいよ旅立つ日を迎えるワクワク感言葉で表せません。お金をためている最中から五感はその場所へと向き、実際に行ったら五感全てが何かを吸収するためにフルに働きます。一人だから見るもの聞くもの食べるもの、その地での出来事、人との出会いは、ハプニングやトラブルも含めてすべて自身の血となり肉となります。帰ってから旅した場所の自然や歴史等に興味が尽きず、書籍やインターネットなどで調べ知識を更新し、また次の旅へとつながることもよくありました。

余裕がない時はほんの少しの時間、近場に出かけました。自分の感性さえ研ぎ澄ませば、期間や距離・場所は関係ありません。また、想像力さえあれば、実際に出かけなくても「旅」はできるのです。「知る」ことで知識や考えを更新し、広い視野で物事を捉える力が養われます。

皆さんの背中にも、今は気づかないかもしれませんが、翼があります。風が吹いてきたとき、大きくその翼を広げ、高く遠く、自由にはばたく日がきつとやってくるでしょう。

それまで大いに学び、経験を積み、自分の胸の中で思いを温め、そのエネルギーを大事に育ててください。